

# 本市の全国学力・学習状況調査結果概要（報告）

平成24年10月9日  
由利本荘市教育委員会

本調査の目的は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析し、その成果を検証して学習指導の改善を図ることなどであり、平成19年度から文部科学省が実施しているものです。本市の抽出校は、小学校10校（50%）、中学校7校（64%）で、4月17日に実施されました。同時に、希望利用調査校も実施し、全ての小・中学校が参加いたしました。（小学6年生約700名、中学3年生約720名）。

調査内容は、従来の国語、算数・数学に、新たに理科が追加されて3教科となり、主として「知識」に関する調査問題Aと、主として「活用」に関する調査問題Bの2種類、小学校と中学校で合計6種類実施されました。なお、理科はAとBの問題が1枚の調査用紙に出題されています。その他に、学習習慣や生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査と、主に校長が回答する教育環境に関する学校質問紙調査も実施されました。

さて、本市では採点の公平性を確保するため、平成22年度から抽出校、希望利用校を合わせて、市学力対策委員会採点委員会にて採点しており、本年度も同様に採点いたしました。したがって、この報告は文部科学省提供の全国のデータと市学力対策委員会が採点した市内の抽出校及び希望利用校のデータに基づくものです。

調査結果の概要としましては、小学校・中学校の平均正答率において、国語、算数・数学、理科とも全国平均を大幅に上回り、本県の全国1位及びトップクラスの成績に貢献しました。このことから、本市の児童生徒の学力の状況は概ね良好なものと判断できます。しかしながら、活用に関する問題の平均正答率の結果から、実生活の様々な場面に活用する力の育成などに関しては、今後さらに授業改善が必要な状況です。

質問紙調査の概要としましては、本市の児童生徒は、全国と比較すると夢や目標を持って生活している姿勢が高まっていることがうかがわれます。家庭学習については、復習とともに予習に取り組む中学生を増やす必要があるなど、学習内容の質的課題を確認することもできました。また、家庭で手伝いをしない児童生徒が全国の割合より高いなど、家庭と連携し、家族の一員としての自覚を高める必要があることも分かりました。

今回の調査結果から、本市の児童生徒は、概ね基礎的・基本的な学力と規則正しい生活習慣等が身に付いていることが確認できました。平成25年度は「きめ細かい調査」として国語、算数・数学の2教科について悉皆による全国学力・学習状況調査に加え、抽出による追加調査が実施される予定ですので、指導方法の改善を一層図ることが必要と考えております。

今後も、本市の児童生徒に自信と誇りをもたせ、将来の夢の実現に向かって粘り強く努力し続ける力を育成したいと考えております。

## 【資料】 全国及び秋田県の抽出校の平均正答率一覧

	〈小学6年 平均正答率〉						〈中学3年 平均正答率〉					
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科A	理科B	国語A	国語B	数学A	数学B	理科A	理科B
秋田県	86.9	63.0	79.5	64.0	79.0	64.0	79.7	70.3	67.4	56.7	61.4	52.8
全国	81.6	55.6	73.3	58.9	69.1	57.6	75.1	63.3	62.1	49.3	56.1	47.8